

ո<mark>տանությություն</mark> 「看護ケアの質評価・改善(看護 QI プログラム)の上手な活用法

看護 QI 研究会 代表 上泉和子

病院における医療サービスの質保証、質改善は、ますます関心が高まっています。特に看護サービスの質は、患者の回復に大きく影響しており、一人あたりの看護師の数が多いことや訓練を受けた質の高い看護師がいることは、医療事故の回避、手術後の合併症の予防、回復の早さなどに関与するといわれています。

「**看護ケアの質評価・改善システム**」は、1993年に開始された「看護ケアの質評価に関する研究班」によって開発された看護ケアの質評価ツールを自己評価版に改変したものを用い、インターネットの Web サイトから直接評価項目 (質問) に回答していただいて、評価結果を病棟単位および病院単位でフィードバックするシステムです。

この評価改善システムは、研究によって抽出された看護の質を決定する重要な要素ごとに評価項目が設定されており、「構造」「過程」「結果」という質評価の概念枠組みを採用しておりますので、分析の結果を「改善」につなぐことができます。これは、看護ケアの質を評価するだけではなく、質改善 (QI;QualityImprovement) を強く意識したプログラムです。

2006年のシステム稼働からこれまでに、のべ 254 施設 1,421 病棟が本システムを利用されています。ご利用いただいている施設の方々からは、「病棟の弱点がわかり改善のために役立てている」という声をいただく一方で「評価結果が抽象的で分かりにくい」といった声も頂いています。また意欲的な病棟では、「自分たちで分析したいので分析方法を学びたい」という声も挙がっています。

Web 版看護ケアの質評価総合システムを有効に活用するには今後どのような活動が望まれるのか?システムを利用している病棟だけでなく、広く看護の質評価改善に興味のある実践家、研究者のご参集をお待ちしております。

【プログラム】 2

2014年8月29日(金)(14:40~15:50) 第3会場

看護 QI システムの紹介

・・・上泉和子(看護 QI 研究会代表・青森県立保健大学)

システム利用で病棟に何か起こるか(システム活用例の紹介)

「自分の病棟の強みと弱点が見えた」

「報告書をもとに次年度の改善計画を立てた」

・・・日野千奈美(兵庫県立がんセンター師長)

システム活用術

- ①「データの読み方、公開します」 ・・・鄭佳紅(看護 QI 研究会・青森県立保健大学)
- ②「報告書の読み方、使い方」 ・・・内布敦子(看護 QI 研究会・兵庫県立大学)